

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターポッポ		
○保護者評価実施期間	令和6年12月16日		～ 令和6年12月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	74	(回答者数) 43
○従業者評価実施期間	令和7年1月8日		～ 令和7年1月22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月12日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子ども達が安心感をもって、楽しみに通園してくれること。	・(小規模のセンターということもありますが)職員全員が子ども達のことを知り、笑顔で関わることを大切にしている。 ・子ども達の小さなサインを丁寧に汲み取って、気持ちを受けとめたり、かなえたりすることを大切にしている。 ・子どもたちがやってみたくなるように遊び(活動)の内容を工夫している。	・今後も研修を重ね、職員の専門性の向上を図り、子ども達の支援に活かしていく。
2	・はぐくみ室や併行通園先の保育園・幼稚園等の関係機関と連携がタイムリーにとれていること。	・お子さんの全体像を一致させるために、または子育てを一緒に支えていくために積極的に連携をとっている。これまでの積み重ねた連携で得た信頼関係がある。	・さらに密な関係機関連携を継続して行う。 ・近隣の児童発達支援事業所や放課後等デイサービスを見学させていただき、相互理解を図る。
3	・家族を支援する取り組みが充実している。	・療育時間内に保護者グループ(お話し合いの場)をもち、日頃の子育てについて悩みや困りを共有したり、お子さんの育ちを確認したりしている。また、父母の会で親同士のつながりがもてるように支援している。 ・年に数回、「きょうだいのつどい」を実施し、きょうだい児さんの交流の場をつくっている。	・子ども達を取り巻く環境や家族の暮らしを理解し、支援できるように研修を重ねる。 ・お子さんの姿と一緒に見ながら育ちを共有し、関わり方に関する理解を深める場として親子療育の機会を増やす。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・各種マニュアルや活動内容などの情報を保護者へ周知していないこと。	・各種マニュアルは策定しているが、保護者の方と共有まで至っていない。 ・活動内容に関しては、HPのブログで都度、発信しているが、そのことが周知しきれていない。	・各種マニュアルを配布し、保護者の方と共有していく。 ・HPのブログで活動内容を発信していることを周知していく。
2	・就学時の移行時に年長児全員に支援内容の情報共有が行えていない。	・必要に応じて、引き継ぎを行っているが、年長児全員には行えていない。要因としては業務全体との時間配分があげられる。	・DX化を推進することで時間を生み出し、就学移行期を支えるための支援内容を検討する。
3			